

令和7年6月5日

「太宰府西小学校・水城西小学校・太宰府西中学校の3校の特別支援学級に在籍する
子どもの保護者を対象にした「保護者のための勉強会②(全3回シリーズ)」

保護者のための勉強会②

先月に続き、太宰府西小学校・水城西小学校・太宰府西中学校の3校の特別支援学級に在籍する子どもの保護者を対象にした「保護者のための勉強会(全3回シリーズ)」にて講師として登壇させて頂きました。

勉強会には、保護者様16名と特別支援学級の先生方11名が参加されました。

内容は、「子どもの意欲を伸ばす大事な視点」と題して講義とグループワークを行いました。

具体的には、

②発達障がいについて ②常識とは？ ②子ども意欲を上げるポイント ②まとめ

以上の内容で進めていきました。

まずは、「発達障がい」についてお話ししました。その中で、発達障がいの主症状の項目をチェックしてみると、

「勝手な行動をする」「空気が読めない」「忘れ物が多い」「片付けができない」
「字が乱れる」「文章問題が苦手」「手先が不器用」「運動が苦手」

など、障がいの有無に関係なく誰しもが当てはまるような項目が多いことに気づきます。

そうすると、どうなるかというと、

「皆に当てはることだから大した問題じゃないね。」

「私も苦手だったけど、どうにもなったわよ。」

「皆一緒なんだから、あなたが頑張るしかないね。」

「いつまでも出来ないのは、あなたの努力不足ね。」

などと一方的に捉えられ、原因は子ども本人にあるという認識が広がります。

結果的に何度言っても失敗を繰り返す子どもに対して、

「何でできないの？」 「いいかげんにしなさい！」

「何度言ったら分かるの！」 「みんなできてるのよ！」

などの否定的な言葉で関わるが多くなってしまいます。

このように常識に当てはめた大人側の一方的な関わりによって子どもはどんどん追い詰められていき、最終的には自信を失くし、「どうせ私なんて」と何事にも意欲を持てない状態に陥ってしまいます。

このような状況は、絶対に避けなければいけませんし、早いうちに改善する必要があります。

そこで、今回は「子どもの意欲を上げる視点」を身につける為の具体的なポイントをたっぷりお伝えしました。

